

第1部：コンセプト 「接縁・無縁／潜縁・一縁・散縁・互縁・重縁」 → 「浸縁空間」

研究の目的

本研究は、破壊された森を、人の生産活動と両立させた状態で回復させるための「環境論」と「形態論」の構築を目的とする。
環境論では、「浸縁空間」というコンセプト及び、「接縁の最適化」の方法を論じる。
形態論では、「根のアナロジーを持つ構造架構体」を探求し、それが「接縁の最適化」に寄与することを論じる。



浸縁空間

「浸縁空間」は、活性レベル「一縁・散縁・互縁・重縁」を連鎖させ、持続的な活動を可能にする。
森で言えば、植生循環を持つ原生林や、人と相互補完している里山、産業内で循環を持つ人工林などである。
都市で言えば、奥へひだ状の街空間をもつ複雑系としての渋谷、小さな専門店が密集している上野アメ横なども「浸縁空間」である。



研究の用語

本研究に用いられる用語「浸縁空間」「無縁・接縁／潜縁・一縁・散縁・互縁・重縁」は、造語であり、私が意味働きと照らし合わせたものである。

研究の背景

持続的活動は、WCED で世界的な問題として議論・提言されてきた。 その中でアジェンダ 21 の主な問題として、「自然保護と開発」の 2 項対立がある。それはこれまで両立させることが困難であった。
「自然保護と開発」が絶妙なバランスを保ち、長期間に渡り持続している例をあげることは、きわめて困難である。

問題提起

私は、自然保護と開発は、両立しようとする。 日本では開発によって破壊・放置された森が多くある。
私は、「人の活動によって破壊された森ならば、人の手によって回復されるべき」と考えている。
その解決法において、「自然保護と開発」のバランスと持続性が重要であるこというまでもない。
本研究で私は、「浸縁空間」というコンセプトを提示し、人の活動と森の活動が両立しようことを論じる。

第2部：プロジェクト 「神奈川県山北町砂利採取場跡地再生プロジェクト」

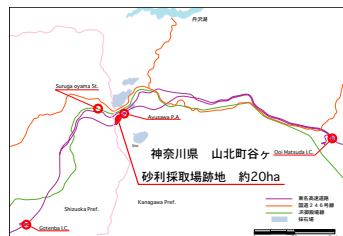
プロジェクトの目的と背景

本プロジェクトの目的は、「神奈川県山北町谷ヶ 砂利採取場跡地」を対象地とし、破壊された森を、人の生産活動と両立した状態に回復させ、「浸縁空間」として創出するものである。

私は、「人の活動によって破壊された森ならば、人の手によって回復されるべき」という考えに基づき、本プロジェクトに着手した。
リチャード・ロジャースの「利用可能な既に人工改変された土地がある限り、開発されていない土地には手をつけるべきではない」という提言は私の研究を後押しするものだった。

プロジェクト対象地

「神奈川県山北町谷ヶ 砂利採取場跡地」



神奈川県山北町にまたがる丹沢山系には、多くの砂利採取場が現在も稼働している。
対象地周辺だけでも、東京ドーム 4 2 個分の採取場がある。
そして、採取の終わった跡地は、放置されてしまっている。
現在稼働している採取場跡地も、おそらく何の事後処理もなされないまま放置されるだろう。

対象地背景・現状

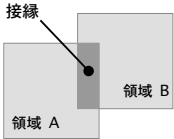


対象地は、長辺約 7 2 0 m、短辺約 4 2 0 m のすり鉢場の敷地である。
南側斜面には、という名高速道路の高架橋が走っている。
周囲の植生は、コナラクヌギ植生であるが、対象地は、砂が浮いた状態である。

現在は、砂利の採取も終わり、放置されてしまっている。

「浸縁環境論」

1. 「接縁」とは、異なる領域が接触し合う状態である。



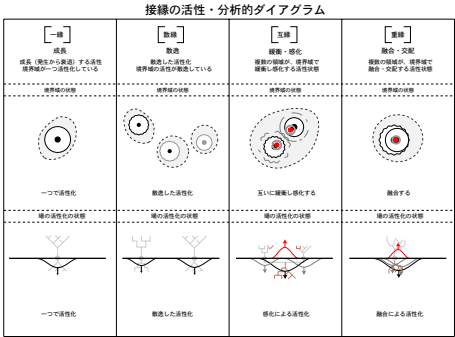
2. 「浸縁空間」とは、接縁の最適な状態である。

3. 「浸縁環境論」では、「接縁の最適化」の方法を論じる。

接縁の活性レベル

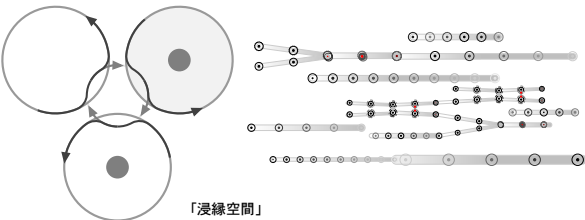
「無縁」は、領域が接触を持たない状態である。
「接縁」は、異質な領域が接触し、活性する状態である。
「一縁・散縁・互縁・重縁」とう活性レベルがある。

「一縁」→ 成長（発生→衰退） 「散縁」→ 散逸
「互縁」→ 緩衝による感化 「重縁」→ 融合・交配



「浸縁空間」 接縁の最適な状態

「浸縁空間」は、活性の連鎖により持続的活動を可能にする。
都市で言えば、さまざまなニーズによって商品や店舗が交配する状況をさす。
発生・成長・散逸・緩衝・感化・融合・交配を連鎖させるアクティブな生態系である。
それは、深い森の植生循環である。「浸縁空間」とは、形態・サイズ・機能が、
状況によってさまざまな活性レベルに変化する概念である。

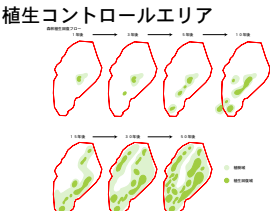
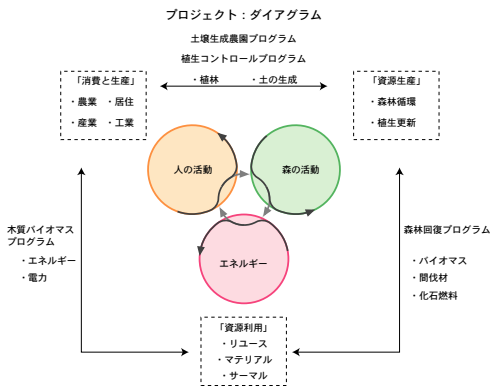


「浸縁環境論」の提言

「浸縁空間」における接縁の数は、多ければ多いほどよい。

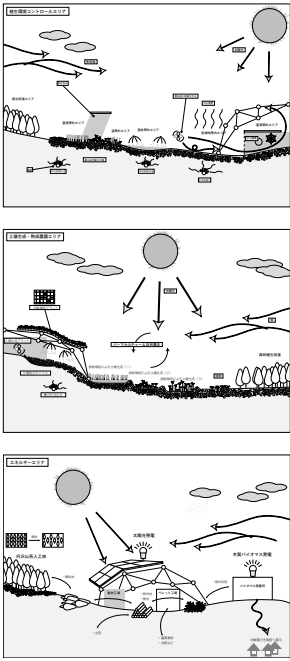
第2部：プロジェクト 「神奈川県山北町砂利採取場跡地再生プロジェクト」

「プログラム」



農園エリア
自然農法
パーマカルチャーの活用

エネルギー生産エリア
間伐材利用によるバイオマス発電
放置人工林からの間伐材採取



予測と効果

「浸縁空間」をコンセプトとする本プログラムは、「人の活動」「森の活動」「エネルギー生産」の連動を促進する働きを持つものである。
各プログラムは、独立したシステムである。
しかし、相互連動することで、持続的な活動を可能にするとする。
それは、機能・サイズ・形態を状況によって変化させるという「浸縁空間」の考えに沿うものである。

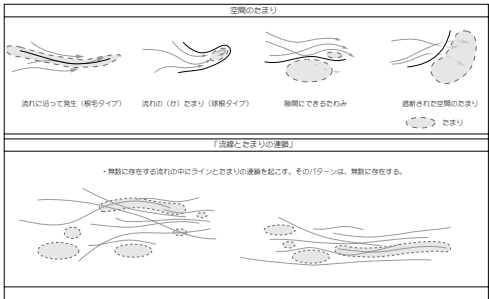
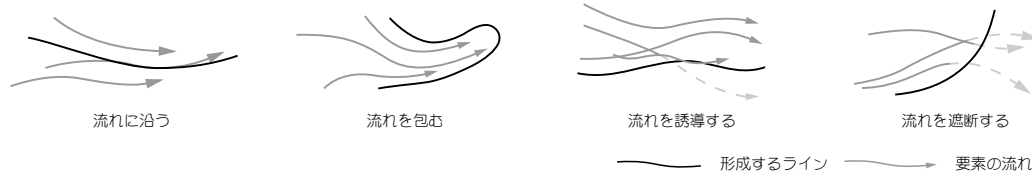
第1部：コンセプト 「接縁・無縁／潜縁・一縁・散縁・互縁・重縁」 → 「浸縁空間」

「浸縁形態論」 根のアナロジーを持つ構造架構体の研究

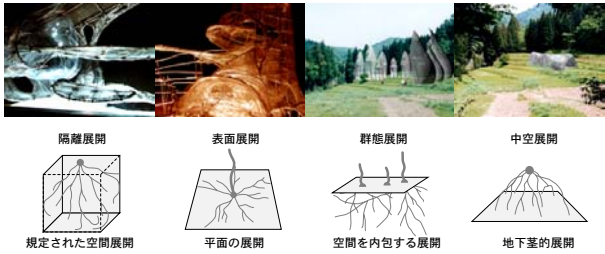
「浸縁形態論」では、「接縁の最適化」に寄与する建築形態や空間を論じる。

近代建築は、超控訴ビルに代表されるような”土地の伝統や歴史に関係をもたない”建築形態であり、それはスタンド・アローンである、しかし、「浸縁形態論」で論じられる建築形態は、植物・樹木の地面に関わる部位、つまり根のように、さまざまな関係性が有機的に展開される。

植物・樹木の根のアナロジー



造形基礎研究



「浸縁形態論」の提言

「浸縁空間」における建築形態は、根のアナロジーを持つ。

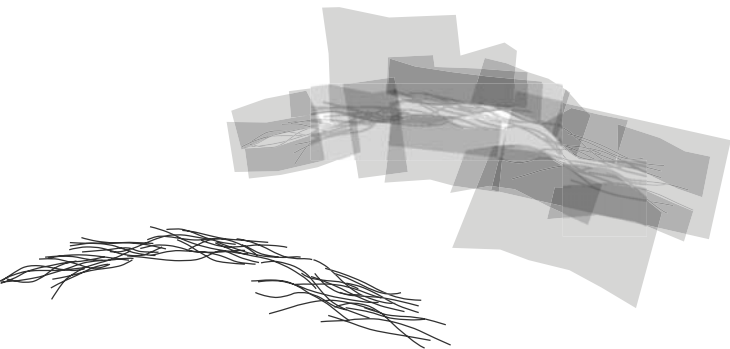
第2部：プロジェクト 「神奈川県山北町砂利採取場跡地再生プロジェクト」

建築形態

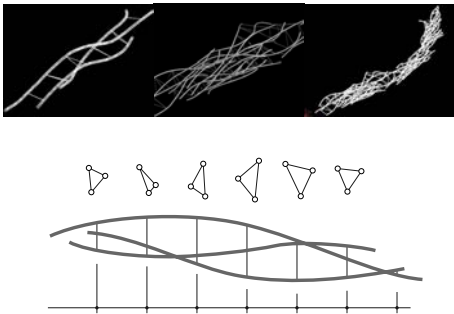
根のアナロジー「沿う・包む・誘導する・遮断する」をコンセプトとし、流れとたまりの連鎖を造り出す。



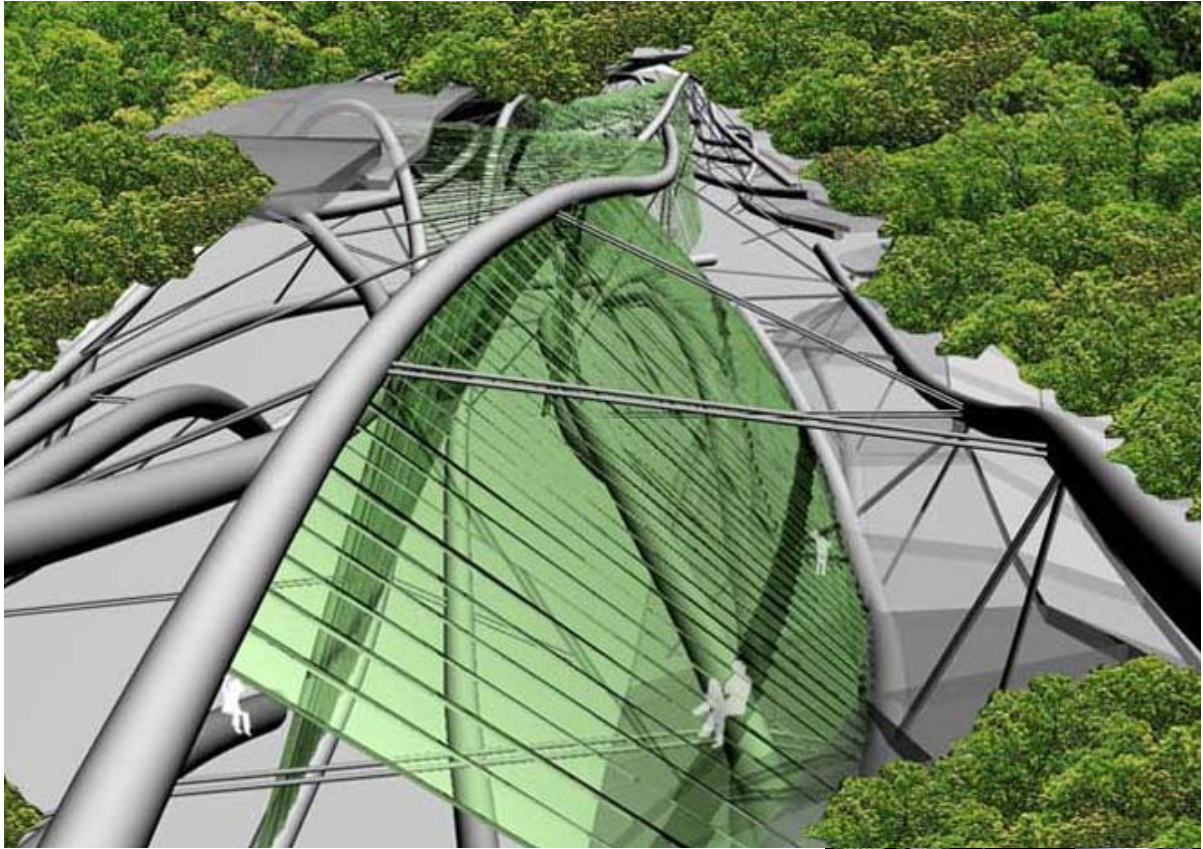
建築形態は、周囲と内部を接触させる境界域である。本プロジェクトでは、多くの接縁を持つ建築構造体を提案し、「浸縁空間」を創出することを目的とする。



主構造体



主構造材は、勇氣展開をする軸を中心とするトラス構造である。幾重にも重なる構造が絡み合うことで合成を得る。それは植物のツルのように展開して行く。



第2部：プロジェクト 「神奈川県山北町砂利採取場跡地再生プロジェクト」



プロジェクト対象地は、「浸縁空間」というコンセプトを用いたシステムプログラム、そして、「根のアナロジー」を用いた建築形態によって、破壊・放置された砂利採取上跡地は、人の活動と森の活動が両立した空間として再生させるだろう。

